

日本語学習者の興味と学習動機の変容
—香港の高校生のライフストーリーより—

The changing process of Japanese Learners' Interest and Learning motivation
—The Life-stories of High School student in Hong Kong—

山下 直子
九州大学

要旨

本研究は、学習者の興味を日本語学習につなげるために、学習者の興味はどのように喚起、維持され、日本語学習動機とはどのように関連するのかを、学習者の興味と日本語学習動機の変容過程から明らかにしたものである。香港の高校で選択科目として日本語を学ぶ9名の高校生にインタビュー調査を行った。調査協力者の中から個人的興味として日本のポップカルチャーへの興味が高い1名のライフストーリーを質的に分析した。分析の結果、日本のアニメーション映画に対する興味の喚起は、自ら探索的な行動となり、興味の広がりや深まりという興味の発達をする。その過程において、個人的興味を生かし、自分にあった学習方法を見出し、目標設定、振り返りといった自己調整的な行動をとっていた。学習者の興味は自己実現、将来の夢につながっている。興味は日本語学習動機を高め、日本語学習を実行、継続する原動力であることがわかった。学習者の興味を日本語学習につなげるために、興味の発達という視点から日本語学習支援を行うことを提案する。

キーワード：

香港の高校生、興味の発達、日本語学習動機、自己調整、ライフストーリー

日本語学習者の興味と学習動機の変容 —香港の高校生のライフストーリーより—

山下 直子
九州大学

1. 本研究の背景と目的

国際交流基金の「海外日本語教育機関調査」によると、海外における日本語学習者の日本語学習の目的や理由としては、日本のマンガやアニメ等のポップカルチャーをはじめとする日本文化や日本語という言葉そのものへの興味が上位¹を占めている（国際交流基金，2020）。海外の日本語教育は中等教育段階の学習者数をもっとも多く、日本語学習の目的・理由として「マンガ・アニメ・J-pop・ファッション等への興味」は、73.5%にのぼる。その一方で、中等教育における「学習者不熱心」という問題が挙げられている（国際交流基金，2011；同 2013；同 2016 など）。この問題について西原（2018）は、海外の学習者はアニメ・マンガ・J-pop に興味がある。しかしながら、学習内容が全く興味のないテーマで展開されること、学習者の自主性が重要視されず、知識伝授型の授業展開であること、そして、評価が言語知識のみを対象にしていることが、不熱心や不継続という結果をもたらすと指摘している。そのうえで、教育支援者側が取り組むべきこととして、学習者の興味関心を教育に繋げることの必要性を挙げている。学習者の興味関心を教育につなげ、主体的に学習に取り組む力を育てることは日本語教育に限らず、教育者にとって不可欠な課題である。

香港においても、香港中學文憑考試（Hong Kong Diploma of Secondary Education）²の科目に日本語が導入されて以降、中等教育機関で学ぶ日本語学習者へ注目が集まり、学習支援強化が求められている。にもかかわらず、従来、若年層を対象にした調査研究はあまり進んでいないことが指摘されている（山下ほか，2017；野村・望月，2018 など）。香港においても日本のポップカルチャーをはじめ日本文化への興味は高く、学習者の興味を日本語学習につなげることで、不熱心・不継続といった問題の対応策を講じることができないのではないか。では、学習者の興味はどのように喚起、維持されるのか。興味と日本語学習動機とはどのように関連するのか。学習者の興味と日本語学習動機の変容過程から明らかにすることを目的とする。

¹ 1位は「マンガ・アニメ・J-pop・ファッション等への興味¹」（66.0%）、2位は「日本語そのものへの興味」（61.4%）、3位「歴史・文学・芸術等への興味」（52.4%）である。

² 「香港中學文憑考試（Hong Kong Diploma of Secondary Education）」は、中等教育の修了要件かつ大学入学資格となる試験である。

2. 興味 (interest) の定義

従来の興味に関する研究において、興味の概念は、感情的とするものと認知的とするものなど多様であり、明確な定義は現在も定まっていないことが指摘されている(湯・外山 2016 ; 田中・市川 2017 など)。鹿毛 (2013) は、「興味とは、ある特定の対象に注意を向け、それに対して積極的に関与しようとする心理状態」(p.133)と定義している。また、田中 (2017) は、「ある対象に付随する特徴や性質によって自発的に注意を向けたり関わろうとする状態および態度」(p.4)と定義している。日本語学習者にとっても、ある特定の対象、それは、アニメをはじめとする日本文化や日本語学習に対するものであり、それらに積極的に関わろうとする心理状態および態度から傾向性となりうるものだと考える。したがって、本研究では、感情と認知的側面の概念を含み、興味を「ある特定の対象に注意を向け、それに対して積極的に関与しようとする心理状態および態度と傾向性」と定義する。

3. 先行研究

3.1 興味 (interest) に関する研究

興味概念が議論されるなかでも、共通する概念の中心的特徴として、興味は個人と環境との相互作用を通じて形成されるため、特定の内容に対して生じるというものであり (Krapp, 2002 ; 田中・市川, 2017 など)、興味は一時的な心理状態として捉えた「状況的興味 (Situational interest)」と持続的な個人特性として捉えた「個人的興味 (Individual interest)」と大きく二つに分けられている (Hidi, 1990 ; Krapp, 2002 など)。

まず、状況的興味は、「環境要因によって喚起される感情反応や焦点化された注意である」(利根川・鈴木, 2019, p.177)。状況的興味は一時的で、外的要因から喚起されることから、教師によって学習内容や学習活動をコントロールしやすい(プロフィ, 2011)。そのため、教材や環境などから喚起する方法や「テキストを読む」という活動に焦点を当てた研究 (Text-based interestの研究) を中核に発展してきた(鹿毛, 2013)。どのようなテキストの要素が興味を喚起するかについては、新奇性や複雑性など(鹿毛, 2013)、そのほか、挑戦性、意外性、不確実性も明らかになっている(ヤーベラとレニンジャー, 2017)。プロフィ (2011) は、活動への興味が生起するものには「自己実現可能性」「同一化³」などを挙げている。

³ プロフィ (2011) によれば、「同一化」は、「同一化/自己投影 (物語・シミュレーション・歴史的テキストの登場人物と同一化して、自己を状況に投影する)」と「同一化/自己への同化 (実際に活動を経験したり、その活動についての情報に接したりすることによって、活動に参加したい、もっとよく学習したいと思うようになる)」(p.248)が挙げられている。

次に、個人的興味は「特定の内容に繰り返し取り組もうとする、比較的永続性のあ
る傾向性である」（利根川・鈴木，2019，p.177）。特定の内容領域に関する感情や個
人的な重要性を意味する。

ブロフィ（2011）によれば、カリキュラムを生徒の個人的興味に合わせることに
よって、動機づけを利用する方略をより効率的にすることができるという。たとえば、
興味を追及させるような活動の選択肢を与えたりすることも一つであるという。

Hidi & Renninger（2006）は、状況的興味から個人的興味への「興味の発達の4段
階（The Four Phase of Interest Development）」モデルを提示している。

このモデルでは、それぞれの興味が、感情、知識、価値の認知、持続性などによっ
て特徴づけられており、興味の発達に伴って、感情や知識、価値の程度が変化すると
示した。興味の発達の4段階の特徴を詳しくみる。まず、第1段階は、外的な刺激に
よって一時的に興味を喚起する段階、次に第2段階は、喚起された興味が持続され、
繰り返し注意を向けたり、自分自身の知識と内容を結びつけたりすることで、内容に
対する価値を見出すようになる段階、そして第3段階は、興味を持った特定の内容（領
域）について比較的長期的に取り組む、安定的な傾向を示す個人的興味の発現段階で
ある。この段階ではポジティブな感情と内容に関連した価値と知識が蓄えられ始める。
最後の第4段階は、十分に発達した個人的興味としての段階で、長期間、特定の内容
に繰り返し取り組もうとする段階である。このように興味の発達につれて持続性が高
まるだけでなく、知識の蓄積と価値の認知が伴っていく。第4段階で十分に個人的興
味が発達している段階に達すると、外的サポートは必要としない。言い換えれば、状
況的興味から個人的興味への発達のサポートがなければ、いつでも興味は消失するの
である。

「興味の発達の4段階」の各段階の定義およびその特徴を示したのが表1である。

表 1 興味の発達 の 4 段階

(Renninger & Hidi, 2016 ; 利根川・鈴木 2019 を参考に筆者作成)

段階	第 1 段階： 状況的興味の喚起	第 2 段階： 状況的興味の維持	第 3 段階： 個人的興味の発現	第 4 段階： 個人的興味の十分な発達
定義	特定の内容に関する感情的、認知的プロセスにおける短期間の変化によって生じた心理的状态	特定の内容に対して繰り返し注意を向けたり持続したりすることを含んだ心理的状态	心理的状态に加え、特定の内容に繰り返し取り組もうとする比較的永続性のある傾向性の芽生え	心理的状态に加え、比較的永続的な、特定の内容に繰り返し取り組む傾向性
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・意外な情報、内容・対象との個人的な関連性といった環境特性が引き金になる。 ・外的なサポートが存在することが多い ・つかの間だとしても内容に関心が向いている ・感情反応にはネガティブである可能性もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題関与、個人的関与による意味づけを通して興味が持続する ・内容に関する知識を深めている ・ポジティブ感情を持つ傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に繰り返し内容に取り組む傾向 ・知識と価値を蓄積している ・自分自身の問いに注意が向いている ・ポジティブ感情を持っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に繰り返し内容に取り組む ・(第 3 段階以上の)知識と価値を蓄積している ・内容について熟考している ・自己調整⁴して問いを再構築し、答えを探索している ・ポジティブ感情を持っている

田中 (2017) は、興味の発達を深化と呼び、興味の高さだけでなく深さに着目している。カラフルな教材など表面的な特徴から喚起される浅い興味 (感情的興味) と学習内容への理解や価値を認識、内容の本質性によって生起される興味を深い興味 (価値的興味) と区別した。そして、興味の 4 段階のステップを踏まなければ、興味を深化させることは不十分であり、浅い興味を喚起してから深い興味にアプローチすることの重要性を明らかにしている。杉山ほか (2018) は、「興味の広がり」と「深まり」という観点から、これまで持っていた興味とは別の領域で興味が発達することは「広さ」で、同一領域内で長期的に継続する過程における連続性のある新しい興味が発達することを「深さ」と捉えている。

⁴ 自己調整学習 (あるいは自己調整) は、「学習者たちが、自分たちの目標を達成するために、体系的に方向づけられた認知、情動、行動を自分で始め続ける諸過程のことである」(ジャンク・ジマーマン, 2014, p.1)。自己調整学習には予見、遂行、自己省察の段階があり、学習者が能動的に「動機づけ」「学習方略」「メタ認知」に関わり、適切に自己調整し、学習を維持していくことである。

3.2 海外、香港における日本語学習動機に関する研究

これまで海外の日本語学習動機に関する研究は、尺度を使い、学習動機の因子を抽出、動機づけ要因との関係性を探るものが主であった（縫部ほか，1995；楊，2011など）。しかし、量的調査だけでは捉えられない学習動機のプロセスを明らかにするためには質的な研究が必要であることが指摘され、近年質的研究も重ねられている（羅，2005；田村，2009；根本，2014など）。

香港において、動機づけに関する質的研究としては、瀬尾（2011）がある。上級の日本語生涯学習者 11 名に半構造化インタビューを行い、グラウンデッド・セオリーアプローチを用いて分析している。調査の結果、「日本文化」や「ポップカルチャー」、「日本旅行」に興味を持ち、学習し始めた日本語学習者は、学習することで、興味は広がり、さらに「日本文化」への興味を深める。そして、「興味と結びつかない内容」や「興味と異なる内容」は日本語学習の困難さにつながっていると、学習者の興味に関わる結果が明らかにされている。そのうえで、学習者の興味に合う教材の開発を提案している。また、瀬尾（2013）は、民間語学学校で日本語を学ぶ高校生 5 名に半構造化インタビューを行った。その結果、「日本語学習を将来の仕事のためといった文化資本を獲得蓄積する投資として、日本語学習を捉えているわけではない」（p.96）。教科書や授業が提示する知識を体系的に学ぶことより日本のポップカルチャーから日本語を学ぶことを重視していた。現在接しているアニメや漫画・ゲーム、バラエティ番組を楽しみながら、自身の楽しみのために必要な興味や関心ごとに対しての日本語を積極的に取り入れようとしていたと述べている。

これまで、学習者の興味あるテーマ、興味にあう教材開発などの必要性は提案されている。しかしながら、香港の若年層を対象にした興味に関する研究は「日本語そのものの興味」の要素に関する研究（山下，2019）のみで、興味と日本語学習動機の変化、関連についての研究は管見の限りない。

4. 研究方法と調査概要

4.1 研究方法

本研究では、高校生のライフストーリーを質的に研究する。やまだ（2007）によれば、ライフ（life）には、「人生」や「生涯」「生活」など多様な意味があるため、どの側面に焦点をあてるかによって、具体的な研究は異なるが、人生のように長い時間軸だけではなく、「『昨日起こった出来事』を語るというような、短いライフを扱ってもよい」（p.124）。本研究では、学習者の興味と日本語学習動機の変化に焦点をあてるが、それらは、一人ひとりの人生、生活のなかで起こる出来事や経験が、どのような意味を持つのかを探ることができる。

4.2 調査協力者

調査協力者は、香港の高校で日本語を選択授業として履修している学習者、高校2年生である。詳細を以下、表2に示す。

表2 調査協力者

グループ	名前 (仮名)	日本語 学習歴 ⁵	趣味 (好きなこと)	将来の夢 (職業)
A	カナ	7年	アニメ, ドラマ, 韓国ドラマ	未定
A	ソニア	5年	アニメ, ダンス	獣医
B	アグネス	7年	音楽, 語学学習, 韓国音楽	理学療法士
B	エミリー	5年	音楽, アニメ, メイク	中国語教員
C	ナンシー	7年	アニメ, 漫画映画, YouTube	未定 日本への交換留学
C	マギー	5年	アニメ, 漫画, ゲーム, 歌	未定
C	トリスタ	7年	アニメ	未定
C	フランシス	5年	アニメ	看護師
D	リク	5年	音楽, 映画, アニメ, 漫画, ゲーム	日本留学 (専門学校) トリマー, YouTuber

4.3 調査方法

調査はオンラインによる半構造化インタビューを行った。2020年の7月から8月にかけて一人1回～2回、40分～1時間半ずつ実施した。インタビューは調査協力者の希望により、1名、2名、4名ずつ実施した⁶。グループをAからDと記す。インタビューは、調査協力者の承諾を得たうえで、ICレコーダーを用いて録音した。また、インタビューのフォローアップにはソーシャルネットワーキングのソフトを通じたやりとりをし、確認を行った。インタビューにあたり、あらかじめ主な質問項目を提示⁷したうえでインタビューを行った。質問項目は、学習者個人の日常生活における特定の物事として、語学学習の経験と日本語学習動機の関連をストーリーとして分析した田村(2009)を参考に、以下のような質問項目とした。

⁵ 9名のうち4名は小学校5年生から日本語の授業を受けていた。しかし、全員が同じ小学校出身ではないため、学習歴が異なる。

⁶ 本調査は、学習者の日本語担当教員に協力を得て、調査協力者を募った。筆者と調査協力者は面識がなく、調査協力は全くの好意によるものである。個人的な内容をインタビューするにあたり、調査実施人数は協力者の希望を優先することがふさわしいと考えたため、調査実施人数が異なる。

⁷ 本調査実施前、2019年7月～12月まで予備的調査を行った。その結果、興味内容や日本語学習経験を語るには、あらかじめ振り返る時間が必要なことがわかった。そのため、主な質問項目と筆者の語学学習経験例を簡単に紹介し、提示した。

**日本語学習者の興味と学習動機の変容
—香港の高校生のライフストーリーより—**

- (1) 日本語はどんな言語だと思いますか。面白いと思いますか。もし、おもしろいと思う場合、どんなところがおもしろいと思いますか。
- (2) 日本語に興味を持つまで、日本語を勉強しようと思うまでにどんな経験、エピソードがありますか。
- (3) 日本語の勉強を頑張ろうと思ったときの体験、エピソードがあれば教えてください。
- (4) 日本語を勉強して、何か変化したことがありますか。
- (5) 将来の目標はありますか。

5. 分析方法

ライフストーリーの質的分析方法として語りを重視する。「語りの分析・解釈に標準的な方法があるわけではない」（桜井・小林, 2005, p.155）が、徳田（2004）によれば、「語りを時系列や主題ごとに並べるなどして、語り全体の構成や内容を整理・把握することが助けとなる」（p.153）という。まず、録音したインタビューのデータを文字化し、逐語録を作成した。手続きの詳細は以下のとおりである。

- (1) 調査協力者のインタビューのデータは、まず、会話のターンごとに会話通し番号をつけたが、1 ターンの中に意味、内容が 2 つあれば、分割して通し番号をつける。（たとえば、R1 はリクの 1 番目のコード番号である。調査協力者の名前のアルファベットに番号をつけた。）
- (2) インタビューデータを再度読み込み、個人的興味と日本語学習動機に関連する内容を抜き出す。
- (3) 抜き出した内容を時期、出来事、個人的興味、日本語学習動機別に時系列の表にまとめる。
- (4) 個人的興味の喚起、維持、発達（広がり、深まり）に関連する日本語学習動機の具体的な調査協力者のインタビューデータを抜き出し、要因とともに書き出す。
- (5) 個人的興味と日本語学習動機の変化をまとめ、ストーリーで示す。

6. 分析結果

本研究では、調査協力者の中から個人的興味として日本のポップカルチャーへの興味が非常に高いリクのストーリーを紹介する。まず、リクの個人的興味、日本語学習動機に関する出来事を時系列にまとめたものが表3である。

表 3 リクの出来事・個人的興味・日本語学習動機

時期	出来事	個人的興味	日本語学習動機
中学 1年生～	【日本語】必須科目として日本語学習を開始		「全然勉強しません」 「ひらがな、50音は難しい」 「難しいから全然わかりません」
	【趣味】ギターを習い始める→(1年後)日本の音楽を聞き始める	【日本文化関連】 日本のギターリスト、音楽を探す	
中学 2年生～	【日本アニメ映画】友人の勧めから日本のアニメーション映画を見る	【日本アニメ映画】 ストーリーに感動、綺麗	早くアニメがわかるようになりたい
中学 3年生～	【ゲーム】オンラインゲームを通じ日本人と交流する 【日本語】語学学校に通い始める	【コンテンツ拡張】 映画,アニメ,歌,ゲーム,YouTube 【日本人】 優しい日本人 【日本語と趣味と学習方法】	・高校で日本語を選択できるように成績を残さなければならない 「とても毎日勉強」 ・日本へ留学するために JLPT の N2 合格を目標
高校 1年生	【日本語】選択科目として履修する	音楽、耳から日本語を	
高校 2年生	【日本語】HKDSE/大学受験準備中	繰り返し聞く	
将来 未来	【夢】トリマー日本留学(専門学校)希望	日本に住みたい	日本語が上手になると夢が叶う

6.1 アニメーション映画への感動から日本語学習動機は一気に高まる

リクの日本語学習開始は、中学校で日本語が必須科目であったからである。しかし、「ひらがな、50音は難しい (R9)」と全然勉強していなかったという。ところが、友人に勧められ見た日本のアニメーション映画『君の名は。⁸』は一瞬にしてリクの心を奪い、興味を喚起させ、日本語学習動機は一気に高まった。身近な他者(友人)の存在は興味を喚起させる要因である。

最初は日本の映画が好きです。最初には、え、、『君の名は。』、この映画。まずは、この映画全然わかりません。だけど、友達と一緒に。私、この映画を見ます。日本語の映画は全然わかりません。見るときはとても感動しました。それでこの映画とても大好き。それで日本語はじめて好きです。(中略)早く、映画の日本語をわかります。わかりたいですから、それで日本語を習いたいです (R1)。

(※下線は筆者による)

⁸ 2016年に公開された長編アニメーション映画。参考ウェブサイト「映画『君の名は。』公式サイト」<<http://www.kiminona.com/>> (2020年12月20日閲覧)

日本のアニメーション映画について、主人公の恋愛、死ぬのか死なないのか、この先どうなるのかわからないといったような予測不可能なストーリー展開と緊張感、そして映像の美しさなどに感動したと述べた。そして、リクの心を動かさせたアニメーション映画にある複合的な要素のなかでも、リクと同じ高校生である主人公は、リクにとって同一化できるものであり、状況的興味、感情的興味を喚起させる要因のひとつである。

6.2 個人的興味の広がりや深まりで日本語学習動機は維持する

アニメーション映画から得た感情的な状況的興味を喚起されたリクであるが、個人的興味の発現には時間を要していない。アニメーション映画を視聴後、日本のアニメやゲーム、歌など多様なコンテンツへ「YouTube探して (R31)」と自ら探索的に興味対象を拡張している。また、リクは多様な趣味を持ち、それらと日本関連の情報探索行動にもつながっている。かっこいいと思って始めたギターであるが、練習し始めて1年後くらいから日本人ギタープレイヤー、日本の音楽を探すようになっていた。また「ハンドボールが好き、日本のハンドボール強いですね。日本人は背が高くない。でも、とても走るのが速くて強い (R49)」とスポーツに関する興味の広がりもみられた。

そして、コンテンツ拡張のひとつであるゲームは、オンラインゲームを通じた日本人との交流機会になり、「今は日本人とコミュニケーションができるようになりたいですから。日本人と友達がほしいです (R76)」と、マンガなどの二次元世界の興味対象は、日本人への興味に変化している。日本人との交流など体験機会も興味の発達の要因のひとつである。

日本人とは話しやすい。日本人は優しい。日本人のゲームの友達があります。みんなとっても優しいです。私がわからないとき、友達は教えます。日本人も話すのは早いですね。だけど、私は、ゆっくりわかります (R80)。

前は少し日本語が好きです、日本語は難しいので、諦めたいです。今は日本のアニメと日本人が大好きです、日本人はとても優しいです。一緒にゲームをやりたいです。日本人と交流できて、とても嬉しいです (R79)。

そして、内容をより深く知りたいとも述べている。

リク：映画を何回も見ました。彼のソウル、ストーリーを知りたい。そして本を買いました (R78)。

筆者：中国語で？読んでどうでしたか。

リク：少し違います。ストーリーはもっとわかりたい (R79)。

リクは、作品のストーリーや主人公の心情をより理解したいと、アニメーション映画の原作本を中国語の翻訳本で読んでいる。コンテンツの拡張や内容への探求心、つまり興味の広がりや深まりは日本語学習動機の維持につながっている。

6.3 個人的興味を利用した日本語学習行動ができるようになる

リクは「私は時間があつたら、日本の音楽を聴きます。それで、この方法は私にいいです (R14)」「漫画はできません。だけど、映画とアニメと音楽、早く日本語できます (R20)」と漫画など文字からではなく耳からの学習が自分にとって有効な学習方法だと捉えており、日本の映画、アニメ、音楽を繰り返し視聴している。さらに、振り返りを行いながら楽しさを感じている。

音楽を自分で聴きます。わからないときストップします。そしてチェックします。それで、日本語の趣味をもっと知りたい。音楽のストーリーももっとわかります。全部わかりますから、心でとつてもとつても楽しい (R83)。

最近は「日本の映画もすこし、ゆっくりわかります。たとえばね、今は、私は中国語を見ません。耳で聞きます。わかりますから、とても楽しい (R81)」と、日本語映画は中国語の字幕を見ずに視聴するなど、個人的興味を生かし、自分にあった学習方法を工夫、変化がみられる。

6.4 自己実現に向けて日本語学習動機を維持する

リクは高校卒業後、日本の専門学校へ行き、トリマーになりたいという夢を持っている。「私も日本に留学へ行きたいですから、日本で勉強しながら、仕事を探します。たぶん 10 年から私は日本人です。笑。 (R47)」「ずっと、だけど香港も行きます。2ヶ所がいいです。 (R51)」

そのために、これからの目標は具体的で明確である。

N2⁹を受けます。それで、日本の専門学校も。もし専門学校行くなら、N2 が必要です。たぶん、1 年。宿題をしながら、勉強します。それで、もし、N2 を取ったら、専門学校へ行きます (R69)。

⁹ 日本語能力試験のレベルのことである。日本語能力試験 JLPT <<https://www.jlpt.jp/about/>> (2021 年 8 月 30 日)

日本語学習者の興味と学習動機の変容
—香港の高校生のライフストーリーより—

DSE は受けます。だけど、大学は行きません。私の夢はトリマー。DSE 要りません (R74)。

そして、日本語学習は将来の夢、自己実現につながると信じている。

日本語をもっと勉強したら、私の夢は叶う。この言語を習いたいです。日本語をとっても習いたいです。トリマーになりたい、留学も行きたい。自分に力をくれます。自分の夢ができる (R84)。

リクはこれまでの個人的興味や日本語学習に対する変化を以下のように話した。

まずは、日本語が少し好きです。だけど、今は心で早く、日本人と一緒に遊びましょう。この感じ。それで、日本語が大好き。毎日もっともっとほしいです。時間がありますから、絶対に勉強。音楽も何も。日本語についてもほしいです。でも、昔は全然ない。はい、日本語わかりませんから。あ、大丈夫かな。大丈夫。笑。でも今、わかりません、え、何これ、何これ、勉強したい。ほしい。この字は何の字ですか。全部がほしいです。『君の名は。』と音楽は人生をチェンジ。はい、とても大切です (R78)。

日本のアニメーション映画による興味が喚起されたことから、音楽、日本人へと興味対象は広がり、「昔は全然ない」日本語学習動機は「もっともっとほしい」と変化している。

6.5 リクの個人的興味と日本語学習動機の変容

リクのストーリーをまとめる。

あまり好きではなかった日本語学習であるが、友人から勧められたアニメーション映画を見たことをきっかけに、興味を喚起、日本語学習動機は高まる。そして、コンテンツ拡張、日本人との交流や体験機会といった興味の広がりや深まりは、日本語学習動機の維持につながっている。さらに、日本人と友達になりたい、コミュニケーションをしたいという想いが高まり、将来は、日本で勉強、仕事をしたいと思うようになる。興味の変容過程において、日本の音楽など個人的興味を生かした自分にあった学習方法を見出し、目標設定、振り返りといった自己調整的な行動をとって

いる。それらの行動の繰り返し、つまり興味の発達と関連した自己調整により、日本語能力は向上し、有能感が高まる。さらに日本語学習動機を高め、自己実現に向けた目標設定へとつながっている。リクにとっての興味は、アニメや歌などの趣味を楽しむだけのものでなく、将来の夢にもつながり、日本語学習を実行、継続する原動力である。

7. 考察と今後の課題

本研究では、リクの個人的興味と日本語学習動機の変容過程から興味の喚起、維持する要因、日本語学習動機との関連を明らかにした。

リクは興味の発達段階において自己調整的な力を使い、相乗効果的な様子が見られた。学習者がすでに持っている興味を生かすことができれば、日本語学習の過程において、諦めたくなる時があっても、自己調整をし、学習動機の維持、実行力を身に付けることができることが確認できた。

学習者の興味を日本語学習につなげるためには、一時的な状況的興味から持続的な個人的興味へ、興味の発達段階に応じて支援するという視点を取り入れることが必要になると考える。田中（2017）が指摘したように、感情的、浅い興味は比較的容易に喚起させることが可能であるが、内容の本質、つまり価値的、深い興味へと注意が向くようにするためには支援が必要である。深い興味へ働きかけるには、浅い興味から深い興味へ発達段階を踏まなければならない。本研究結果からは、映像等を利用し、きれいな、緊張といった感情的興味から学習者の興味を喚起させ、知識を蓄積させる。それから日本人とのコミュニケーション実現など価値的興味へ発達させる支援が必要である。

学習者の感情的、状況的興味の喚起には、授業トピックに「新奇性」「意外性」のほか、年齢に応じ「同一化」できる内容は意識的に選ぶことを提案したい。また、興味の維持には、興味を迫及するプロジェクトワークを取り入れることが期待される。それらは長期、継続的な日本人との交流体験機会が有効である。すでにオンラインによる日本人との交流会などは積極的に行われていると思うが、イベント的なものではなく、定期的な意見交換、長期、継続的なプロジェクトワーク等をクラスメート、そして日本人との協働活動として行うことで、日本語学習の継続、促進につながると考える。

興味の発達を支援するという視点により、授業内だけでなく学習者のキャリア、将来を見据えた日本語教育が可能になると考える。

日本語学習者の興味と学習動機の変容
—香港の高校生のライフストーリーより—

一方で、興味、つまりある特定の対象に注意を向ける、積極的に関与することには個人差が認められる。どのくらいエネルギーを注ぎ、想い抱いているかという熱量差、その変容にかかる時間差等に鑑みて、発達段階の把握、支援の具体的な対応策を講じるには学習者を丁寧に見ていき、多様な事例を重ねることが不可欠である。

本研究は、日本文化や日本語への興味が高い学習者のライフストーリーを明らかにすることができた。しかし、日本文化や日本語に興味を持っていないが、授業に参加している学習者を対象にした調査が必要である。また、リクには自己調整的な学習行動が見られたが、興味と自己調整学習との関連についての説明は今後の課題としたい。

謝辞

本調査へのご協力を快諾して下さった先生と学習者の皆様に深く感謝いたします。

付記

本稿は 筆者が2020年に九州大学大学院地球社会統合科学府に提出した博士論文の一部を加筆修正し、執筆したものである。

参考文献

- 鹿毛雅治 (2013) 『学習意欲の理論－動機づけの教育心理学－』金子書房
- 国際交流基金 (2020) 『海外の日本語教育の現状 2018 年度日本語教育機関調査より』
- 国際交流基金海外日本語教育機関調査 <<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/result/>> (2021 年8 月30日)
- 桜井厚・小林多寿子 (2005) 『ライフストーリー・インタビュー質的研究入門』せりか書房
- 杉山 昂平・森 玲奈・山内 祐平 (2018) 「成人の趣味における興味の深まりと学習環境の関係－アマチュア・オーケストラ団員への回顧的インタビュー調査から－」『日本教育工学会論文誌』42, 31-41
- 瀬尾匡輝 (2011) 「香港の日本語生涯学習者の動機づけの変化－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析から探る－」『日本學刊』11, 16-39
- 瀬尾匡輝 (2013) 「香港の民間語学学校で日本語を学習する高校生達の学び－構成主義の観点から－」『日本學刊』16, 92-103
- 田中瑛津子 (2017) 「理科に対する深い興味を育む授業設計についての検討」東京大学教育学研究科博士学位論文
- 田中瑛津子・市川伸一 (2017) 「学習・教育場面における興味の深化をどう捉えるか－ポジティブ感情と価値の認知に着目して－」『心理学評論』160, 203-215
- 田村知佳 (2009) 「ドイツにおける日本語学習動機に関する一考察－3 人の学生を対象とした episodic interviewing の事例」『大阪大学言語文化学』18, 157-168
- 徳田治子 (2004) 「ライフストーリー・インタビュー」無藤隆・やまだようこ・南博文・麻生武・サトウタツヤ (編) 『ワードマップ質的心理学－創造的に活用するコツ－』新曜社
- 利根川明子・鈴木雅之 (2019) 「感情・ストレス研究アプローチ」上淵寿・大芦治 (編著) 『新・動機づけ研究の最前線』北大路書房, 166-185
- 西原鈴子 (2018) 「第二外国語としての日本語の学習・教育に関する一考察－増加と深化を目指して－」『日本言語文化研究会論集』14, 1-18
- 縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1995) 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査－ニュージーランドの場合－」『日本語教育』86, 162-172
- 根本愛子 (2014) 「日本語学習動機におけるポップカルチャーの役割－カタルを事例とした量的および質的研究－」一橋大学大学院言語社会研究科博士学位論文
- 野村和之・望月貴子 (2018) 「『心の拠り所』としての日本語－香港人青少年学習者による日本語学習のエスノグラフィー－」『日本語教育』169, 1-15
- ブロフィ, ジェア (2011) 大河内祐子 (訳) 「生徒の内発的動機づけを支援する」中谷素之 (監訳) 『やる気をひきだす教師 学習動機づけの心理学』金子書房, 247-277
- ヤーベラ, サナ・レニンジャー, K・アン (2017) 小野田亮介 (訳) 「学びのためのデザイナー－興味, 動機づけ, 積極的関与」『学習科学ハンドブック 第二版 第3巻－領域専門知識を学ぶ／学習科学研究を教室に持ち込む－』ソーヤー, R. キース (編著) 秋田喜代美・森敏昭・大島純・白水始 (監訳) 望月俊男・益川弘如 (編訳) 北大路書房, 123-137
- 山下直子・梁安玉・劉礪志・李澤森・李夢娟 (2017) 「2016 年香港日本語学習者背景調査報告－年少者と成人の学習動機－」『日本學刊』20, 117-124
- 山下直子 (2019) 「日本語の興味－香港の高校生の場合－Interest in Japanese Language-Focusing among High School student in Hong Kong」『日本學刊』22,94-103

日本語学習者の興味と学習動機の変容
—香港の高校生のライフストーリーより—

- やまだようこ (2007) 『質的心理学の方法—語りをきく—』新曜社
- 湯立・外山美樹 (2016) 「大学生における専攻している分野への興味と変化様態—大学生用学習分野の興味の尺度を作成して—」『教育心理学研究』64, 212-227
- 楊孟勳 (2011) 「台湾における日本語学習者の動機づけと継続ストラテジー—日本語主専攻・非専攻学習者の比較—」『日本語教育』150, 116-130
- 羅曉勤 (2005) 「ライフストーリー・インタビューによる外国語学習動機に関する一考察—台湾における日本語学習者を対象に—」『外国語教育研究』8, 38-54
- Hidi, S. (1990) Interest and its contribution as a mental resource for learning. *Review of Educational Research*, 60, 549-571
- Krapp, A. (2002) Structural and dynamic aspects of interest development: Theoretical considerations from an ontogenetic perspective. *Learning and Instruction*, 12, 383-409.
- Renninger, K. A., & Hidi, S. (2016) *The power of interest for motivation and engagement*. New York: Routledge.